

## 国際メトロポリス会議2016 (International Metropolis Conference 2016)

国際メトロポリス会議2016が、2016年10月24日（月）～28日（金）の4日半にわたり、名古屋国際会議場で開催された。この会議は、移民に関する研究者・行政関係者・および実践家のリンケージを深め、国境を越える人々の受け入れ社会における統合と受け入れ社会の活性化を目指すことを目的にカナダの移民局が1996年に創始し、現在カナダのカールトン大学に本部が置かれている。今回の会合は、井口泰関西学院大学教授が組織委員長となり、アジアで初めての開催となった。今年のテーマは、「人の移動と社会統合の叡智による平和・相互信頼の構築」(Creating Trust through Wisdom on Migration and Integration)である。会議は24日（月）のスタディ・ツアー（外国人が就労する豊田市の自動車工場見学、名古屋入国管理局、移民・難民を支援するNGO関係者との意見交換、浜松市の外国人の子ども達が就学する学校訪問など）から始まり、4日半にわたって8つの全体セッション、3つの特別レクチャー、そして53のワークショップから成る大規模なものであった。

当研究所からは林玲子国際関係部長が、4日目の「アジア諸国における少子高齢化を見すえた技術革新・労働・外国人政策」をテーマとした全体セッションにおいて、日本をはじめとするアジアの高齢化とケアニーズの予測、現在活発に導入が議論されているケア人材が将来的には日本よりも他のアジア諸国で必要性が高まること、アジア諸国内のケア人材の還流移動構想があることなどを中心に基調講演を行った。筆者は中川雅貴・国際関係部研究員と共に上智大学総合人間科学部社会学科の竹ノ下教授が組織したRecent Changes in Immigrant's Integration in Comparative Perspective: Dialogue between Japan and Swedenというワークショップにおいて、“Demographic Aspects of Immigrant's Integration in Japan”と題する報告を行った。日本人口学会関係者では、早稲田大学の小島宏教授がThe Dietary Integration of Muslim Population in East Asiaと題するワークショップを組織されていた。

国際メトロポリス会議は、移民に関わる様々な関係者のネットワーク作りと多様性を重視した政策志向的な会議であるため、1つのワークショップに参加するメンバーは、2つ以上の国籍、2つ以上の分野（学術、行政、実務）から構成することが条件とされている。そのため、ワークショップにおける発表や質問も学術的なものから個人的な主張に近いものまで立場の違いによって様々であり、良く言えば多様、悪く言えばまとまりに欠けるとの印象であったが、多くの質問が次々と出され、非常に活発な議論が展開されていた。（千年よしみ 記）

## 2016年人文地理学会大会

2016年人文地理学会大会が2016年11月11日～13日に京都大学吉田南キャンパス（京都市左京区）において開催された。13日には人口関係のセッションが設けられた。都合により13日の一部の研究発表しか拝聴できなかったが、以下に人口関係の発表を列挙する。

牛痘種痘法の普及にともなう天然痘死亡率復原のための歴史GISの構築

.....川口 洋（帝塚山大学）

日本の夫婦出生力の地域差

—2000年代の15の統計調査を用いた45～64歳有配偶女性の子どもの数の分析—

.....山内昌和（国立社会保障・人口問題研究所）

過去の年齢別転出率の適用による移動流の推定—滋賀県市町を例として—

……………小池司朗（国立社会保障・人口問題研究所）

東京圏の将来の転入・転出人口……………貴志匡博（国立社会保障・人口問題研究所）

（貴志匡博 記）